教育研究創発機構　公開研究会

第２回
地方分権化時代のカリキュラム改革
学校は主体性を発揮できるか

教育研究創発機構第２回公開研究会は、分権化時代の学校の自律性について、教育課程の問題を中心にそれぞれの論者を迎えて、シンポジウム形式で開催します。

パネラー：

大槻達也（文部科学省初等中等教育局教育課程課長）

佐藤雅彰（静岡県富士市立岳陽中学校前校長）

藤田英典（国際基督教大学教授）

進行：苅谷剛彦　（東京大学・教育研究創発機構・機構長）

日時：2004年７月７日（水）

午後３時～５時半（時間厳守）

場所：東京大学赤門総合研究棟　200号教室

丸の内線・都営大江戸線　本郷三丁目駅下車・・・徒歩７分
南北線　東大前駅下車・・・徒歩10分
東大赤門を入ってすぐ右の建物の２階です

どうぞご自由にご参加ください

共催：基礎学力研究開発センター
主催・問い合わせ先：教育研究創発機構
東京大学大学院教育学研究科附属　学校臨床総合教育研究センター内
〒113-0033　東京都文京区本郷７－３－１
電話 03-5841-3916/Fax 03-5804-3826　　E.mail: school@p.u-tokyo.ac.jp

：主旨：

中央教育審議会の答申を受けた学習指導要領「総則」の改訂等によって、学習指導要領が「最低基準」であることが明確なった。2003年度の教科書検定によって、「発展的な学習内容」が教科書に盛り込まれることとなった。もとより、近年の教育改革では、「特色ある学校」づくりが謳われ、「選択教科」や「総合的な学習の時間」における学校独自のカリキュラム編成が重視されるようになっている。これらの動きは、教育内容の面で、学校の裁量権や自主的な判断が重要になっていることを示している。他方で、教育委員会制度の見直し、教育委員会と学校との関係の見直しをはじめ、教育における地方分権化の流れの中で、学校の自律性を高めようとする議論も始まっている。

はたして、カリキュラム編成や学校運営のうえで、学校が主体性を発揮するためには何が必要であり、何が余計なのか。学校の内と外とに目を配りつつ、自主的な学校づくりを可能にするしくみや、これまでそれを阻んできた制約条件などについて考えてみたい。

このような問題関心のもとに、今回の公開研究会では、カリキュラム編成や学校運営のあり方を中心に、３人の専門家にそれぞれの立場から発表していただき、シンポジウム形式で議論を進める。登壇者は、教育社会学が専門で、現在、中央教育審議会の専門員を務めていらっしゃる国際基督教大学教授の藤田英典氏、文部科学省初等中等教育局教育課程課の課長として、この数年、教育課程行政に関わってこられた大槻達也氏、静岡県富士市立岳陽中学校で校長として、校内研を中心に自主的な学校づくりを目指してきた佐藤雅彰氏の３名である。

（機構長・苅谷剛彦）